

講義コード	1051270002
講義名称	人権教育論A 02<秋>
科目英文名	The study in education for human rights A
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	0EDU2420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大北 規句雄

授業 形態	講義	実務経験のある教員による授業①	実務経験のある教員による授業②
		行政職員として人権政策に関わって来た経験のある者が、その経験を活かして今日的な人権諸課題の概要や、問題解決に向けたアプローチ等の取組の紹介などを行う。	まちづくりコンサルティング会社の職員としての経験のある者が、その経験を活かして「地域共生社会」の取組概要やアプローチを紹介する。

アクティブラーニングの 詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。
	コメントシート

講義・演習概要	部落差別撤廃の様々な取り組みや経験を通して差別の歴史や社会的役割を学び、日本における普遍的な人権の概念について検証する。また部落解放運動の中で取り組まれている「まちづくり」等「地域共生社会」を創造する実践についても学び、「人と人が豊かに繋がり、誰もがありのままに生きることが出来る新しい地域社会の再構築」とはどのようなものなのか検証し、教職を目指す学生が、人権問題を単に知識として得ることにとどまらず、当事者の創造的な実践に学び、自ら感じ、行動出来る想像力を養うこともこの授業のねらいとする。
学習（到達）目標	1. 排除・忌避意識の社会的・歴史的背景を説明することができる。 2. 様々な人権課題や差別問題の歴史的経過や、社会性を説明することができる。 3. 差別解消のための様々な努力から学び、被差別当事者の思いをしっかりと受け止め、記述することができる。 4. 上記1～3を踏まえ、自分の意見をしっかりと論理的にまとめ、記述することができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	（1）講義ガイダンス・オリエンテーション ①受講ルールの説明（受講にあたってのルールやマナーの説明） ②授業計画（授業日程や全15講の内容説明） ③評価基準の説明（単位取得について、評価方法の説明） （2）ワークショップ「人権はいま・・・」 授業に入るまでの学習リードとして、現代社会における様々な人権概要についてクイズ形式で学ぶ。
第2回	人権概論（Ⅰ） 「鬼と呼ばれた人、狐にされた人」 ①日本文化に現れる「隠し」の思想、②「穢れ」意識と差別の固定化への変遷の検証、③「暮らし」に根付く文化や伝統の意味
第3回	人権概論（Ⅱ） 「排除・忌避の背景を検証する」 ①なぜ福祉は一部の「可哀想な人」の問題になったのか、②ジェントリ・フィケーションとは何か、③都市の持つ「排除・忌避」の機能
第4回	部落問題論（Ⅰ） 「部落差別とはなにか」 ①「部落」とは何か、「部落民」とは誰の事か？②いったい誰が規定してきたのか。③これら部落差別の歴史的起源と水平社創立以前の部落差別の検証を行い、日本の近代化以前の部落問題について検証する。
第5回	部落問題論（Ⅱ） 「水平社とはなにか（水平社宣言を読む）」 ①水平社結成の歴史背景を検証する。②当事者運動としての「水平社」創立が意味するもの、③日本で最初の人権宣言である「水平社宣言」の中身を考察する。④水平社運動が与えた影響について考える。

第6回	部落問題論（Ⅲ） 「戦後民主主義と部落解放運動」 ❶オールロマンス事件（闘争）と行政責任論の登場、❷日本の民主主義運動に部落解放運動が与えた影響。❸戦後の部落解放運動の光と陰、❹地域共生社会実現への挑戦
第7回	部落問題論（Ⅳ） 「部落問題にかかわる諸理論の展開と論点」 これまでの部落解放運動から生まれてきた様々な差別解消のための「理論」と「論点」を検証し、部落問題の複雑さや難しさについて理解する。
第8回	同和（人権）教育論（Ⅰ） 「同和教育の歴史と実態から見えるもの」 ❶同和教育の歴史と創り上げられてきた実践や経験の意味。❷人権教育の「四認識論」に見る同和教育の発展。❸今日的な人権教育の拡がり実践の検証。
第9回	同和（人権）教育論（Ⅱ） 「意識化とは何か（文字を奪い返す取り組みから見えるもの）」 ❶教科書無償闘争、❷識字教室の営み、❸奨学金闘争、❹進路保障の取り組み等、を通じて教育とは何かを問い直す。
第10回	社会問題論（Ⅰ） 「ネット社会における部落問題」 ❶ネット社会における部落差別の現実。❷情報流通プラットフォーム対処法（情ブラ法）の制定をめぐる。❸部落問題から見る「カミングアウトとアウティング」。❹アルゴリズムとフィルターバブル問題。
第11回	社会問題論（Ⅱ） 「貧困・格差社会と部落解放運動の果たす役割」 ❶被差別部落の今日的実態と差別解消の様々なアプローチ、❷部落解放運動を支える社会的ネットワークの拡がりを検証する。❸セツルメントと同和地区隣保館の意味。❹同和地区の実践と国が目指す地域共生社会。
第12回	地域共生論（Ⅰ） 「部落解放への展望を探る（被差別部落が目指した人権のまちづくり）」 ❶部落のまちづくりをめぐる4つのチャンス、❷各地で取られる「人権のまちづくり」へのチャレンジを検証する。❸ソーシャルキャピタルとは何か。
第13回	地域共生論（Ⅱ） 「国が目指す地域共生社会の意味とは」 ❶2000年福祉の基礎構造改革の意味、❷2018年社会福祉法の改正と「地域共生社会」の創造、❸地域共生社会を実現するためには
第14回	地域共生論（Ⅲ） 「人権の新しい概念の創造に向けて」 ❶グローカル概念とは何か、❷拡がる人権の概念、❸グローバルコンパクトとSDGs。❹「人権デューデリジェンス」とは何か。❺「アンコンシャス・バイアス」、「マイクロ・アグレッション」、「ポリティカル・コネクトレス」とは何か。
第15回	課題設定のテストおよびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	35%
レポート	65%
その他	

成績評価の方法（コメント）	❶最終試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題出題する。授業での内容やオリジナリティなど自身の意見が論理的に述べられているかを重点に評価する。 ❷毎回授業のふりかえりとして、授業内容が理解されているかを判断するための小レポートを実施する。 ❸欠席が全授業の3分の1を超えると単位を認められないことがある。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大北規句雄	隣保館「まちづくりの拠点として」	大学オンライン販売	978-4-7592-1029-3	解放出版社	
2.		大阪の部落解放運動「100年の歴史と展望」	大学オンライン販売	978-4-7592-4233-1	解放出版社	
3.						授業時に「レジュメ」と参考資料を配布します。

参考文献	「改訂：戦後同和教育の歴史」 部落解放研究所編 解放出版社
------	-------------------------------

事前および事後学習の指示	事前学習：前回授業終了時に次回講義の課題と「キーワード」を指示するので、事前に調べておくこと（推定目安時間 1 時間） 事後学習：ミニレポート（推定目安時間 1 時間）
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	差別、人権、偏見、排除、忌避、部落、感染症、地域経営、ソーシャルインクルージョン、ダイバーシティ、ノーマライゼーション、ジェントリフィケーション、地域共生社会、まちづくり、SDG s
備考(管理者用)	（旧：同和教育論）02～07生読替☆（旧：人権教育論）08～17生読替

講義コード	1536200000
講義名称	社会学特講-日本人の悩みの変遷　＜秋＞
科目英文名	Topics in Social Studies-Changes in the Problems With Life-Course in Japan
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	OSOC1430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
池田　知加

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	この講義は、社会学的な観点から新聞や雑誌に掲載された人生相談コラムを資料としながら、一般の人たちが日々の生活の中で、どのような問題に悩み、また、その問題に対してどのような解決や対処方法を考えてきたかについてみていきます。そうした個人が抱える悩みや問題は、裏返せば、一人ひとりにとって「幸せ」の内実を映し出すものでもあります。そのため、本講義では個人的な悩みとその向こうにある幸福の内実とそれらの変化を同時にみていくことになります。そして、その悩みの変化から、戦後日本社会の社会意識の動向や社会のあり方を考察していきます。
学習（到達）目標	「人生相談」といった質的資料を分析するための方法をまずは理解したうえで、社会学的な観点から分析することができる。人の悩みや、悩みへの解決策というのは、個別的なものでありながら、時代の価値観や社会のあり方を大いに反映していることを理解し、説明することができる。つまり、個別的な事柄から、普遍的な何かをとりだしてみること、そしてそれを各自がフィードバックして、自分にあてはめたりしながら、社会のあり方へと思考を広げて、「私」の問題を「社会」のあり方や問題とつなげていくような思考ができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション:講義内容の概要
第2回	資料への視点1:人生相談に悩みを打ち明ける
第3回	資料への視点2:社会意識の変化をみてとる
第4回	若者の悩み1:人生目標の変化
第5回	若者の悩み2:「個性尊重」の教育への転換
第6回	若者の悩み3:「個性尊重」の教育の問題
第7回	子どもの悩み:教室の中の対人関係
第8回	親子間の悩み1：結婚しない「子ども」について
第9回	親子間の悩み2：自立しない「子ども」について
第10回	男性の悩み1：悩みの言葉を奪われた男性
第11回	男性の悩み2：男性にとっての「仕事」
第12回	女性の悩みの変遷1：女性にとっての「家庭」
第13回	女性の悩みの変遷2：「家庭」と「愛情」の意味変容
第14回	重い男性の経済負担・女性の働き方
第15回	講義の総まとめと確認テスト

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	成績は確認テストと日常課題で評価します。試験は授業の内容を理解しているかを問います。日常課題として、小テストやコメントシート（40%）を実施します。
---------------	--

参考文献	池田知加『人生相談「ニッポン人の悩み」 幸せはどこにある?』光文社新書 4334032968
事前および事後学習の指示	事前学習として、配布レジュメを読んで、不明な点などをピックアップしておく（2時間） 事後学習として、講義で提示する課題（コメントシートや小テスト）に取り組み、授業内容の理解を深める（2時間）
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	人生相談 質的データ 社会意識

講義コード	15E5610002
講義名称	障害者スポーツ論A 02<秋>
科目英文名	Sport Theory of the Persons with Disabilities A
開講責任部署	社会学部 ソーシャルデザイン学科
代表ナンバリングコード	SOCW1520
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
植田 里美

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 障がい者スポーツ協会勤務
------	----	---------------------------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	体験学習(実習、実験)

講義・演習概要	・障がいのある人がスポーツをすることの意義や目的、障がい者スポーツの現状と課題について学ぶと共に、障がいや障がい者スポーツに関する知識を学ぶ。 ・映像などを活用し理解を深めたり、実際の指導法を実技を交えて講義することもある。 ・ 1 回以上、パラアスリートとの交流を行う。
学習（到達）目標	障がいや障がい者スポーツについての基本的知識を理解し、障がいのある人のスポーツ支援ができるようになる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス、障がいおよび障がい者スポーツについて ①授業に関する概要の説明 ②障がいおよび障がい者スポーツについての導入
第2回	障がいや障がい者のスポーツについて考える ①レポート
第3回	障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツの歴史と動向
第4回	障がいの概念と障がい者の状況 障がい者スポーツに関する諸施策
第5回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅰ ①身体障がい（肢体不自由①）
第6回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅱ ①身体障がい（肢体不自由②）
第7回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅲ ①身体障がい（視覚障がい）
第8回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅳ ①身体障がい（聴覚・音声言語障がい、内部障がい）
第9回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅴ ①知的障がい、発達障がい
第10回	障がいの理解とスポーツ、指導上の留意点と工夫Ⅵ ①精神障がい

第11回	障がい者との交流（実技または講義） ①レポート
第12回	障がい者スポーツ大会 ①パラリンピック ②全国障害者スポーツ大会
第13回	障がい者スポーツ推進の取り組み ①地域での取り組み ②障がい者スポーツ指導者制度 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質
第14回	障がいに応じたスポーツの工夫 コミュニケーションスキルの基礎
第15回	まとめ及び試験

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	20%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	・第15回目にテストを実施します。（教室内で定期試験を実施できない場合は、M-Port上で行います） ・レポートは2回実施します。期限内に提出すること。 ・「その他」は、毎授業に出す課題の提出および授業中の積極的な参加等で評価します。
---------------	---

テキスト

	著 者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備 考
1.	（公財）日本パラスポーツ協会	障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級）	大学オンライン販売	9784324112502	ぎょうせい	

事前および事後学習の指示	新聞やテレビなどの障がい児・者スポーツに関する話題に目を通したり、障がい児・者の大会やイベントのボランティアを行うことで、より学びを深めることができます。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：障害者スポーツ論）02～10生読替☆S生のみ履修可能

講義コード	1750330000
講義名称	比較文学B　＜秋＞
科目英文名	Comparative Literature B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2470
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
岩男　久仁子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	西洋古典期の早くから「イソップ寓話」は流布していた。様々な形態で文字化され保存されてきている。現在では全世界に広まっている「イソップ寓話」をその初期の形態を中心に他の時代の物（特に日本のイソップ寓話）との比較を行い、イソップ寓話の特質を見ていく。
学習（到達）目標	イソップ伝(イソップの生涯の物語)」を中心に、講義を進めていく。 2000年以上も前から伝わる伝承から現在まで脈々とつながる思想を読み解くとともに、当時の社会背景なども、日本と比較していく。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション どういう視点で行う講義なのか、評価の方法など解説。
第2回	①イソップ寓話の挿絵　解説
第3回	②イソップ寓話の挿絵　解説
第4回	③イソップ寓話の挿絵　解説
第5回	①喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第6回	②喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第7回	③喜劇作家アリストファネスとイソップ寓話
第8回	①古代ギリシアの女性像
第9回	②古代ギリシアの女性像
第10回	①河島敬藏とイソップ寓話
第11回	②河島敬藏とイソップ寓話
第12回	①自由の問題
第13回	②自由の問題
第14回	③自由の問題
第15回	テストおよびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	33%
レポート	33%

その他	34%
-----	-----

成績評価の方法（コメント）	レポート33%→こちらが指定するテーマでレポートを必ず提出。未提出の場合は、単位認定しません。 レポートは、提出すれば「合格」ではありません。厳しい条件をクリアしたレポートのみ、レポートの内容を評価します。 試験33%→講義の総まとめとして秋学期の終わりに行います。試験を受けない場合は、単位認定しません。 その他34%→講義中に課す小課題についてのコメント(皆さんの意見・感想等)を11回以上提出すること。それ以下であれば、単位認定しません。
---------------	--

参考文献	『イソップ寓話の世界』 中務哲郎著 ちくま新書 600円 『イソップ寓話集』 中務哲郎訳 岩波文庫 700円
事前および事後学習の指示	詳細は講義中に指示するが、理解を深めるために、「イソップ寓話集」「イソップの生涯の物語」を読む。 「イソップ寓話集」は数多くあるが、手に入るもので良い。 「イソップの生涯の物語」は講義で配布する。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：比較文学) 02～17生読替

<社会人の方へ>授業資料はWebClassに配布しますので、紙媒体では配布しません。

講義コード	17A9350000
講義名称	学科特殊講義-スペイン・ラテンアメリカの世界遺産Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Lecture on Special Topic-World Heritage Sites in Spain and Latin AmericaⅡ
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
川嶋　まどか

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	スペイン語は、世界で最も話者数が多い言語のひとつです。スペインやラテンアメリカ諸国など21カ国で公用語とされおり、スペイン語を母語とする話者数は約5億人といわれています。この講義では、スペインおよびラテンアメリカの世界遺産に着目し、世界遺産の登録基準や評価から見える当該国の歴史、社会、文化に関する基礎知識を身に着けることを目的とします。また、映像や音楽などの視聴覚教材を用いることもあります。さらに、世界遺産が直面する保護と活用に関する課題や社会問題についても取り上げます。毎回の講義冒頭で、受講者から提出されるコメントシートの内容や関心、疑問について取り上げ、講義内で紹介、共有し適宜フィードバックします。春学期からの通年履修が望ましい。
学習（到達）目標	スペインおよびラテンアメリカ諸国の歴史や文化、社会について正しく理解し、自分の言葉で他者に説明できるようになること。 スペイン語圏の文化や歴史、習慣など興味を持てるテーマを発見し、自発的に調査し、考察できるようになること。

講義・演習計画

回	内容
第1回	シラバスおよび評価基準に関する授業オリエンテーション 春学期の講義概要の紹介
第2回	世界遺産基礎知識 スペインおよびラテンアメリカ地域の無形文化遺産
第3回	ニカラグア① ニカラグアの地理と気候、ニカラグアの世界遺産について
第4回	ニカラグア② 世界遺産レオン・ピエホ遺跡、レオン大聖堂
第5回	ニカラグア③ ニカラグアの考古学
第6回	古代アメリカ文明：古代メソアメリカ文明と古代アンデス文明
第7回	講義のまとめとふり返り レポート課題①
第8回	エルサルバドル① エルサルバドルの地理と気候、エルサルバドルの世界遺産について
第9回	エルサルバドル② 世界遺産ホヤ・デ・セレン遺跡とマヤ文明
第10回	エルサルバドル③ エルサルバドル考古学とJICA
第11回	メキシコ① メキシコ基礎情報、メキシコの世界遺産について

第12回	メキシコ② 世界遺産メキシコシティ歴史地区
第13回	世界遺産と観光①
第14回	世界遺産と観光②
第15回	講義のまとめとふり返し レポート課題②

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	評価は、2回のレポート提出60％、講義のコメントシート（毎回の講義のまとめと感想）40％を合計して評価します。講義時間中の私語は慎み、スマートフォンは授業内で指示される課題等で必要な場合を除き使用しないこと。
---------------	--

参考文献	参考文献は配布資料に記載するので確認すること。
事前および事後学習の指示	毎回の講義で配布するレジュメの整理および講義内容の復習を行ってください。 またM-Portで課題を指示する場合があるため、M-Portの確認を行うこと。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	世界遺産、ラテンアメリカ、スペイン語圏、地域事情

講義コード	17N3290000
講義名称	比較文化研究-近現代の日本と朝鮮半島B　＜秋＞
科目英文名	Study of Comparative Cultures -Modern and Contemporary History of Japan-Korea Relations B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
西村　直登

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	19世紀後半から20世紀半ばにかけての戦争と植民地支配の歴史をめぐり、日本と朝鮮半島のあいだでは「過去」をいかに克服するかという論争が現在もなお続いている。いわゆる「歴史認識問題」は、政治やナショナリズム、人びとの記憶と結びつきながら複雑化し、新聞やテレビ、インターネット・SNS等のメディアを通じて増幅され続けている。こうした「過去」をめぐる葛藤や対立、そして交流の歴史は、国家間の問題にとどまらず、両地域に生きる人びとの「現在」の課題でもある。 そこで本講義では、戦後における日本と朝鮮半島の関係史を概観する。その際、両者を単に「比較」するのではなく、たがいの「関係」を重視し、そのなかで生じた人びとの対立・葛藤・交流などの歴史的意味を考察したい。授業では配布レジュメのみならず、パワーポイントや映像、写真、歴史史料などを積極的に活用することで、歴史的背景への理解を深めるとともに、多角的な歴史的想像力を養うことを目指す。
学習（到達）目標	朝鮮半島の歴史・社会・文化について基本的な知識を習得する。 近現代の日朝・日韓関係について想像力を働かせながら、歴史的に考えることができるようになる。 国際的な諸問題に対して、主体的に物事を考え、相互理解ができるようになる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	脱植民地化と冷戦①　「8.15」：「敗戦」と「解放」
第3回	脱植民地化と冷戦②　朝鮮半島の分断
第4回	戦後における在日朝鮮人①　もうひとつの「解放」と「分断」
第5回	脱植民地化と冷戦③　朝鮮戦争と日本
第6回	戦後日韓関係①　日韓会談：日韓国交正常化と植民地支配問題
第7回	戦後日韓関係②　韓国民主化運動と日本社会
第8回	戦後日韓関係③　1990年代以降の日本と朝鮮半島
第9回	歴史認識と相互理解①　もうひとつの「戦後」：植民地支配責任・戦争責任を／から考える
第10回	歴史認識と相互理解②　日本軍「慰安婦」問題
第11回	歴史認識と相互理解③　朝鮮人強制動員被害者（「徴用工」）問題
第12回	歴史認識と相互理解④　関東大震災朝鮮人虐殺と虐殺否定論
第13回	戦後における在日朝鮮人②　外国人学校と民族教育
第14回	戦後における在日朝鮮人③　ヘイトスピーチ・ヘイトクライムとレイシズム
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	0%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	試験：授業のテーマ・事件・人物・用語に関する記述・論述。 その他：授業内容に関するコメントペーパーを作成・提出。 ※出席率が70%未満の場合、試験を受ける資格を失い、成績評価の対象としません。
---------------	--

参考文献	『日韓交流の歴史：先史から現代まで』（明石書店、2007年） 『植民地朝鮮：その現実と解放への道』（東京堂出版、2011年） 『在日朝鮮人：歴史と現在』（岩波新書、2015年） 『在日コリアンの歴史を歩く：未来世代のためのガイドブック』（彩流社、2017年） 『調べ・考え・歩く 日韓交流の歴史』（明石書店、2020年） 『日韓の歴史をたどる：支配と抑圧、朝鮮蔑視観の実相』（新日本出版社、2021年） 『新・未来をひらく歴史：東アジア3国の近現代史』（高文研、2025年）
事前および事後学習の指示	毎回授業で配布するレジュメや参考資料、授業で紹介した参考文献・URLを読んだり調べたりしておいてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	日本、朝鮮、韓国、在日朝鮮人、在日コリアン、歴史、社会、文化、戦争、植民地支配
備考(管理者用)	(旧：比較文化研究－近現代の日本と朝鮮半島) 02～10E・06～10CBCC・02～17L生読替

講義コード	1N05070000
講義名称	社会保障法B　＜秋＞
科目英文名	Social Security Law B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW3470
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
楠本　敏之

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	社会保障法Aで年金、医療保障、社会手当を取り扱いましたが、その継続として、労働保険（労災補償・雇用保険）、社会福祉、介護保険、公的扶助（生活保護）という社会保障法上の重要な個別分野についてより深くわかりやすく解説します。その上で、社会保障法上の今日的な課題・問題についても検討していきます。
学習（到達）目標	国民の生活にきわめて密着した分野である社会保障法について、その重要な基本的事項を正確に理解することを目標とします。より具体的には、各社会保障法の発展過程、法体系及び基本原理についての正確な理解に基づいて、個別の法制度についての基本的知識を習得できるようにします。最終的には、少子化・高齢化、格差社会、貧困といった現代日本の社会的諸問題に法的視点からの確に判断できるようになることを目指します。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス～講義の進め方・方針など（社会保障法Aの取扱事項のまとめを含む）
第2回	労働保険（１）－総論①
第3回	労働保険（２）－総論②・労働者災害補償保険法①
第4回	労働保険（３）－労働者災害補償保険法②・雇用保険法①
第5回	労働保険（４）－雇用保険法②など
第6回	社会福祉（１）－総論①社会福祉の意義、社会福祉法制の沿革及び体系など
第7回	社会福祉（２）－総論②社会福祉法の具体的仕組みなど
第8回	社会福祉（３）－障害者福祉
第9回	社会福祉（４）－児童福祉
第10回	社会福祉（５）－介護保険法①など
第11回	社会福祉（６）－介護保険法②
第12回	社会福祉（７）－介護保険法③及びその他の福祉など
第13回	公的扶助（１）－公的扶助の意義とその制度的変遷・基本原理など
第14回	公的扶助（２）－生活保護法の具体的仕組みなど・社会保障のその他の問題
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法 (コメント)	備考 学期末の2回のレポート（各50％）のみで評価します。ただ、毎回の授業に関し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。
-------------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	加藤智章ほか	社会保障法（有斐閣アルマ・第8版）	大学オンライン販売	9784641222113	有斐閣	社会保障法Aと共通

参考文献	岩村正彦編『社会保障判例百選（第6版）』（有斐閣）
事前および事後学習の指示	社会保障法は、体系的に理解することが特に重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例等の資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、各講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	社会保障、社会福祉、労働保険
備考(管理者用)	(旧：法学特講－社会保障法B) 02～19生読替

講義コード	1P41135003
講義名称	心理学＜秋＞
科目英文名	Psychology
開講責任部署	人間教育学部 人間教育学科
代表ナンバリングコード	000GE115
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
高木 悠哉

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)

到達目標	①心理学における科学的な思考法について説明できる。 ②心と行動の法則性に関する研究知見について、基礎的、応用的な側面から説明できる。 ③心と行動の法則性を日常生活にどう応用するかについて説明できる。
授業概要	日常生活では、科学的な方法論を用いない心や行動の法則性が流布し、それに伴い学問としての心理学も誤解されることが多い。心理学とは、多様で複雑な心と行動を細分化し、それら1つ1つの法則性、関係性を科学的に解明することを試みる学問である。本講義では、我々にとって非常に身近な心と行動の問題についての、心理学の基礎的な研究分野をテーマごとに概説し、それら基礎知識とともに、心理学における科学的なデータの読み解き方の修得を目指す。
授業計画	1．心理学の定義と歴史的変遷 2．心理学の研究手法①「因果関係と相関関係」 3．心理学の研究手法②「実験法・調査法・事例研究法」 4．感覚・知覚と注意機能 5．学習①「古典的条件づけ・オペラント条件づけ」 6．学習②「観察学習・洞察学習・潜在学習」 7．記憶のシステムと働き 8．感情の理論・制御 9．動機づけ①「生理的動機づけ」 10．動機づけ②「社会的動機づけ」 11．社会的認知と自己 12．社会的影響力と社会的関係 13．問題解決・推論 14．発達とパーソナリティ 15．ストレスと健康
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配付する。
参考書	越智啓太（編）『心理学ビジュアル百科:基本から研究の最前線まで』創元社，2016年 サトウタツヤ・渡邊芳之（著）『心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い 改訂版』有斐閣，2019年
評価方法	①グループワーク課題：20％ ②リフレクションシート：30％ ③期末テスト：50％
既修条件	なし